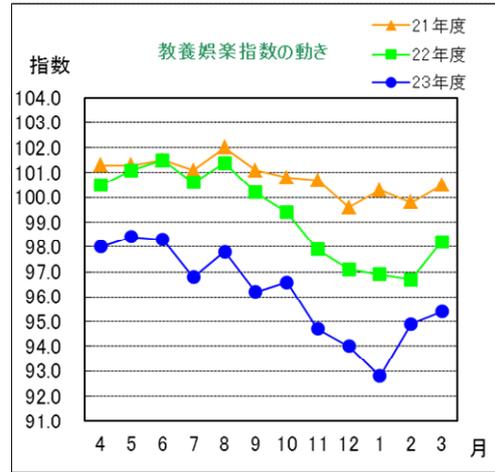
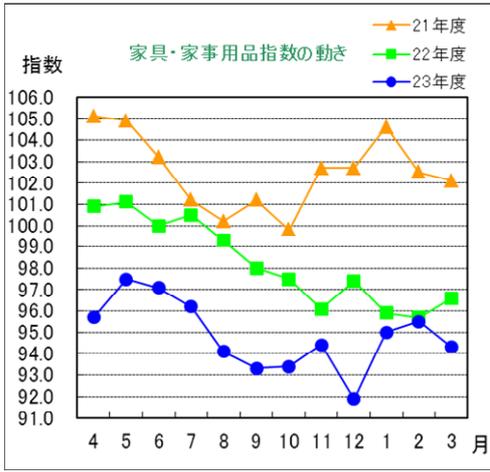
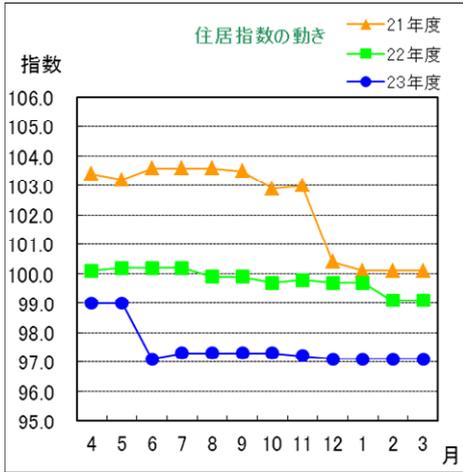
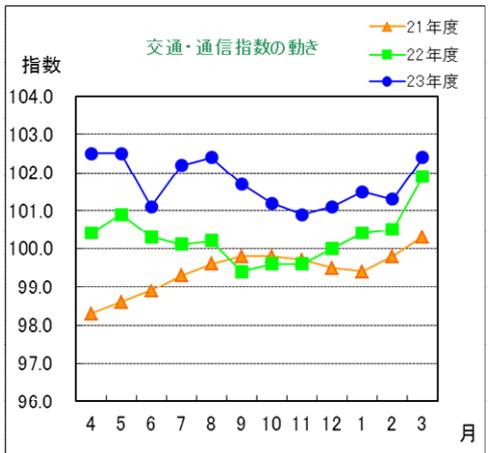
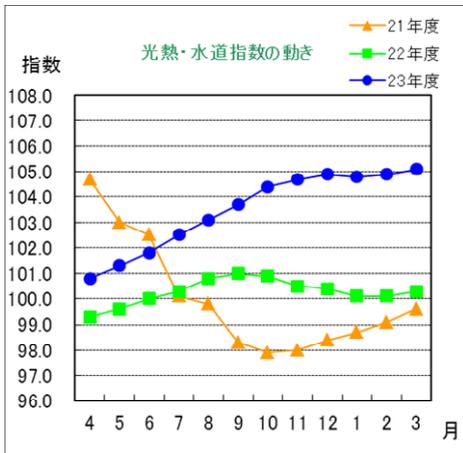


(図-2)

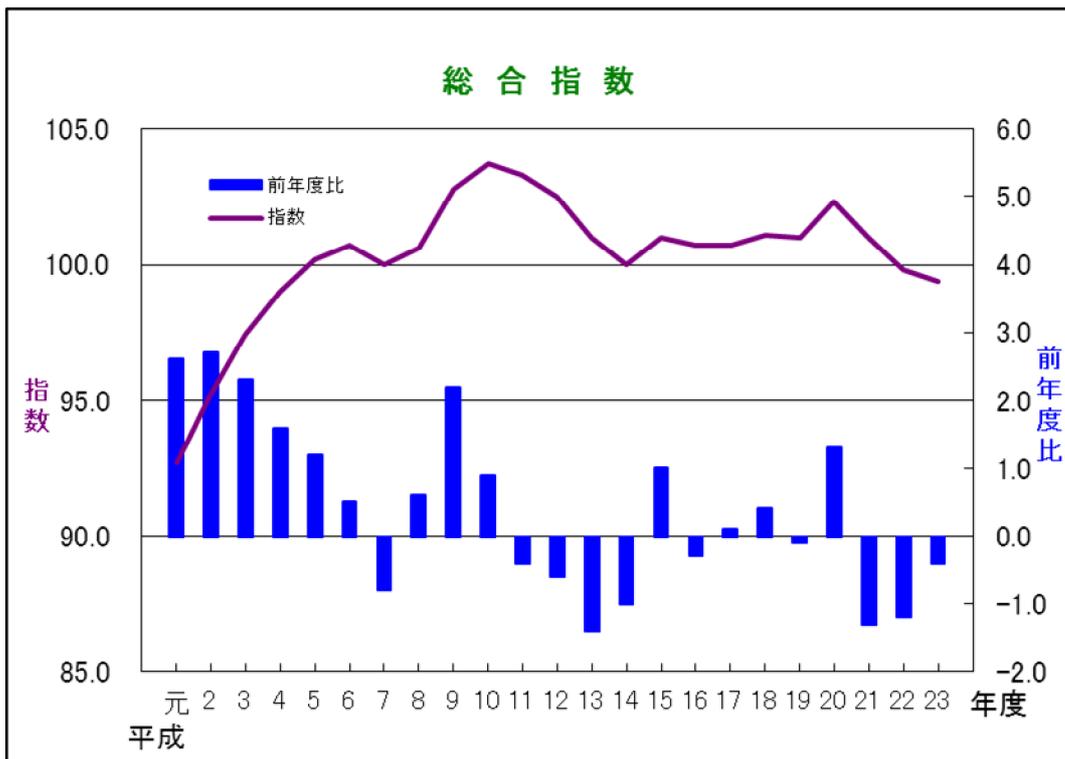
下落した中分類指数



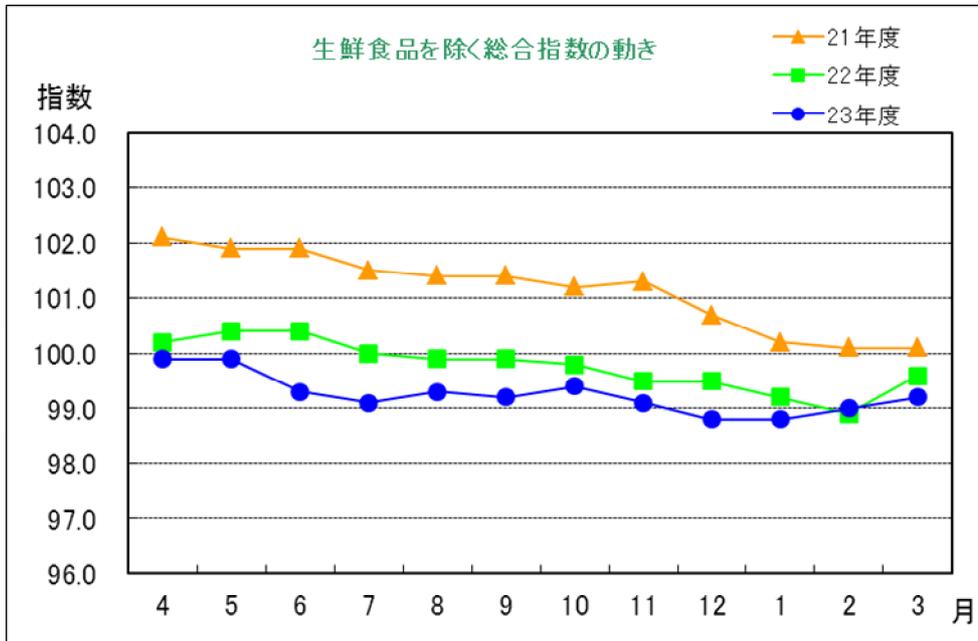
上昇した中分類指数



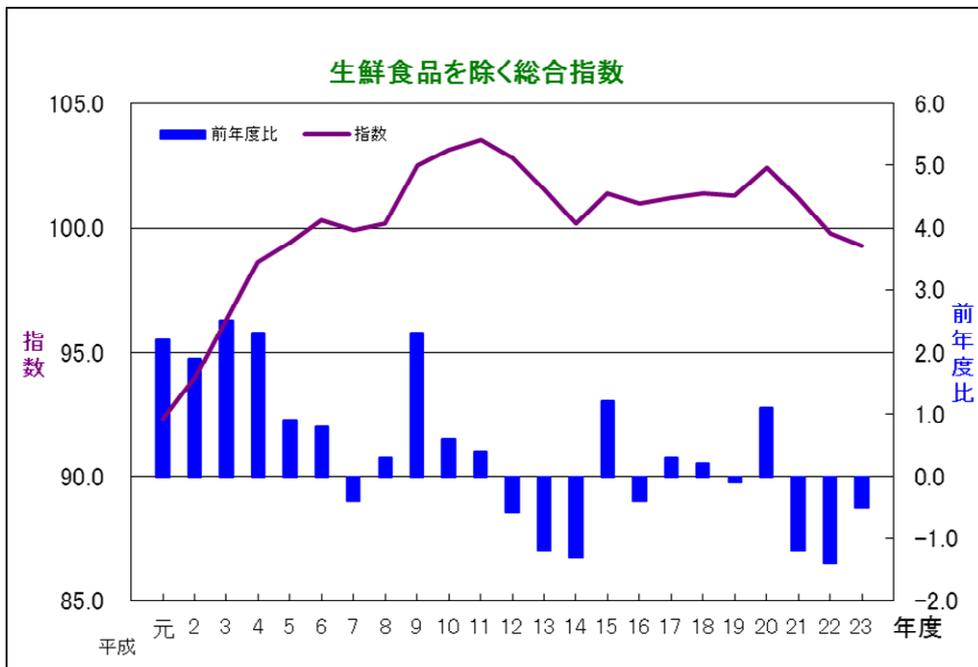
(図-3)



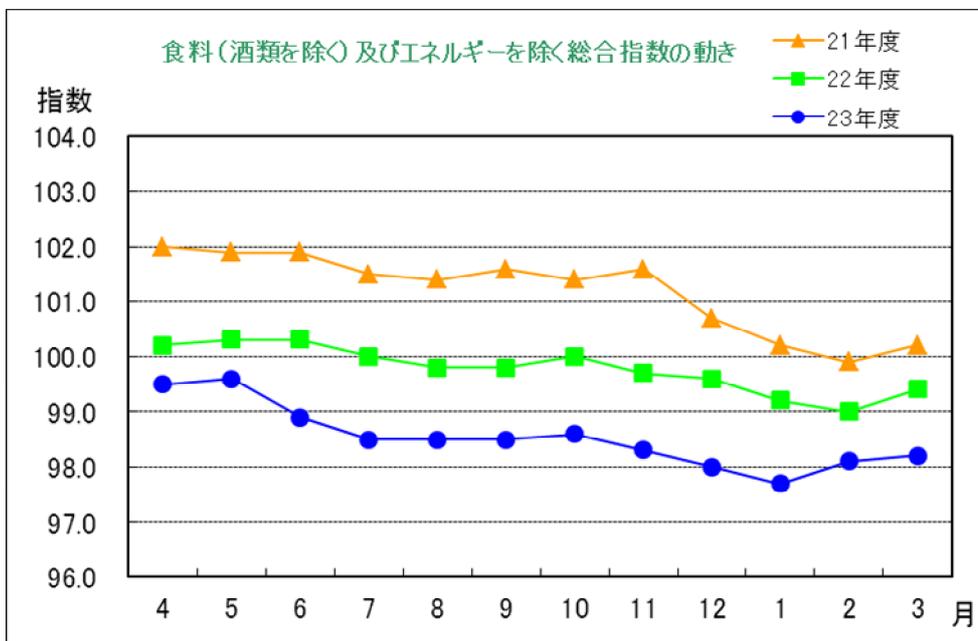
(図-4)



(図-5)



(図-6)



3. 10大費目指数と前年度比および寄与度

平成22年=100

10費目名	指数	対前年上昇率	寄与度	寄与の大きい項目 (中分類等・対前年上昇率)
食料	99.8	0.3	0.08	調理食品 1.7
住居	97.5	-2.3	-0.51	家賃 -2.0
光熱・水道	103.5	3.2	0.22	ガス代 5.2 電気代 3.2
家具・家事用品	94.9	-3.4	-0.12	家庭用耐久財 -8.5
被服および履物	100.3	1.0	0.04	洋服 1.2
保健医療	98.4	-1.7	-0.07	医薬品・健康保持用摂取品 -3.0
交通・通信	101.7	1.5	0.21	自動車等関係費 2.6
教育	99.6	0.0	0.00	
教養娯楽	96.2	-3.2	-0.37	教養娯楽用耐久財 -20.0
諸雑費	104.5	2.9	0.15	たばこ 16.0 他の諸雑費 4.0

注) 寄与の大きい項目は、各10大費目に対する寄与度が最大の項目のみ掲載しています。

4. 総合指数の前年度比に対し寄与の大きかった中分類指数等

● 上昇した中分類指数等の主な項目（寄与度順）

自動車等関係費 [交通・通信]	(+)	2.6%
ガス代 [光熱・水道]	(+)	5.2%
電気代 [光熱・水道]	(+)	3.2%
たばこ [諸雑費]	(+)	16.0%
他の諸雑費 [諸雑費]	(+)	4.0%
調理食品 [食料]	(+)	1.7%

● 下落した中分類指数等の主な項目（寄与度順）

家賃 [住居]	(-)	2.0%
教養娯楽用耐久財 [教養娯楽]	(-)	20.0%
設備修繕・維持 [住居]	(-)	4.1%
家庭用耐久財 [家具・家事用品]	(-)	8.5%
医薬品・健康保持用摂取品 [保健医療]	(-)	3.0%
教養娯楽用品 [教養娯楽]	(-)	2.1%
菓子類 [食料]	(-)	2.1%

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品（生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物）については、小分類指数です。

注) 寄与度：総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

【参考】近年の総合指数の動き

近年の消費者物価の動向をつかむため、ここ数年の総合指数の対前年度上昇率をみると、平成17年度は、交通・通信、被服および履物などが値上がりしたことにより、総合指数については0.1%上昇し、生鮮食品を除く総合指数についても0.1%上昇しました。

平成18年度は、食料や光熱・水道などが値上がりしたことにより、総合指数が0.4%上昇し、生鮮食品を除く総合指数も0.2%上昇しています。

平成19年度は、交通・通信、諸雑費、教育などが値上がりしたものの、教養娯楽、家具・家事用品、食料などが値下がりしたことなどにより、総合指数、生鮮食品を除く総合指数ともに0.1%下落しました。

平成20年度は、総合指数は原油価格高騰の影響を受け、食料、交通・通信、光熱・水道の各指数が春から夏頃にかけて近年にない伸びで上昇した結果1.3%上昇しました。また生鮮食品を除く総合指数も1.1%上昇しました。

平成21年度は、総合指数は年度当初から下落傾向にあり、食料および交通・通信が前年度を大きく下回ったことにより1.3%下落し、過去2番目に高い下落率となりました。また、生鮮食品を除く総合指数も1.2%下落しました。

平成22年度の総合指数は、住居、食料、教育が前年を大きく下回って推移したことにより、年度をとおして下落傾向で、前年度比1.2%の下落となりました。また、生鮮食品を除く総合指数は前年度比で-1.4%と過去最大の下落となりました。